

中距離種目におけるリザルトスコアとプレイシングスコアの関係

榎本 靖士¹⁾

1) 筑波大学

1. 中距離種目におけるワールドランキング

中距離種目（男女 800 m と 1500 m）は 2025 年に開催される東京世界選手権エントリーのためのターゲットナンバーは 56 とトラック種目のなかでは最も多い。エントリースタンダードは男子 800 m で 1 分 44 秒 50、女子 800 m で 1 分 59 秒 00、男子 1500 m で 3 分 33 秒 00、女子 1500 m で 4 分 01 秒 50 と極めて高水準となっている。女子 1500 m では田中希実選手（ニューバランス）がスタンダードを突破しているものの、その他の種目では日本記録よりもスタンダードが高い状態である。そのため、日本選手が世界選手権の出場を目指すためにはワールドランキングによる出場を検討しておく必要がある。

図 1 は、ワールドランキング 70 位（各国 3 人）までの男女 800 m におけるプレイシングスコアとリザルトスコアの関係を示したものである。プロットにはランキングの横も示している。男女とも全体には正の相関関係がみられるものの、上位者は右上方に位置し、間隔も大きい、下位者は左下方に集中し、下位集団を取り上げると相関関係はみられないことがわかる。この時点においてはランク 56 位前後は男女ともリザルトスコアが 1100 から 1150 の範囲、プレイシングスコアが 50 から 100 あたりに分布している。表 1 に示したようにリザルトスコアから記録をみると、男子 800 m では 1100 は 1 分 47 秒 46、1150 は 1 分 45 秒 78 であり、女子 800 m では同様に 2 分 03 秒 55、2 分 00 秒 71 である。現在の日本人トップ選手ではこれらの記録は十

分に狙える記録である。一方、プレイシングスコアの 100 は、競技会カテゴリ B（コンチネンタルツアーシルバー）で優勝、あるいはカテゴリ A（コンチネンタルツアーゴールド）で 4 位以上が必要となる。国内で数レース開催されるカテゴリ C（コンチネンタルツアーブロンズ）において優勝はプレイシングスコア 60 であるので、現実的にはリザルトスコア 1100 の記録でカテゴリ C レースで優勝を目指すことが確率的に高いように考えられる。

図 2 は、ワールドランキング 70 位（各国 3 人）までの男女 1500 m におけるプレイシングスコアとリザルトスコアの関係を示したものである。男子では 800 m と同様に直線的な分布をしており、上位集団は右上方で点在し、下位集団は左下方で混在している。この時点でのランク 56 位はリザルトスコアが 1100 から 1150 の間に、プレイシングスコアが 50 から 100 の間あたりに分布している。リザルトスコアから記録をみると、1100 は 3 分 40 秒 52、1150 は 3 分 36 秒 82 である（表 1）。800 m と同様に日本トップ選手はカテゴリ C レースで優勝を目指すこと、B 以上のレースで日本記録に挑戦し、プレイシングスコアも獲得することでターゲットナンバーに入る可能性のあるパフォーマンススコアを獲得することができる。

2. 女子 1500 m におけるプレイシングスコアとリザルトスコアの関係

図 2 における女子 1500 m のプレイシングスコア

表 1 中距離種目におけるリザルトスコアに対する記録

リザルトスコア	男800	女800	男1500	女1500
1100	1:47.46	2:03.55	3:40.52	4:13.48
1150	1:45.78	2:00.71	3:36.82	4:07.04

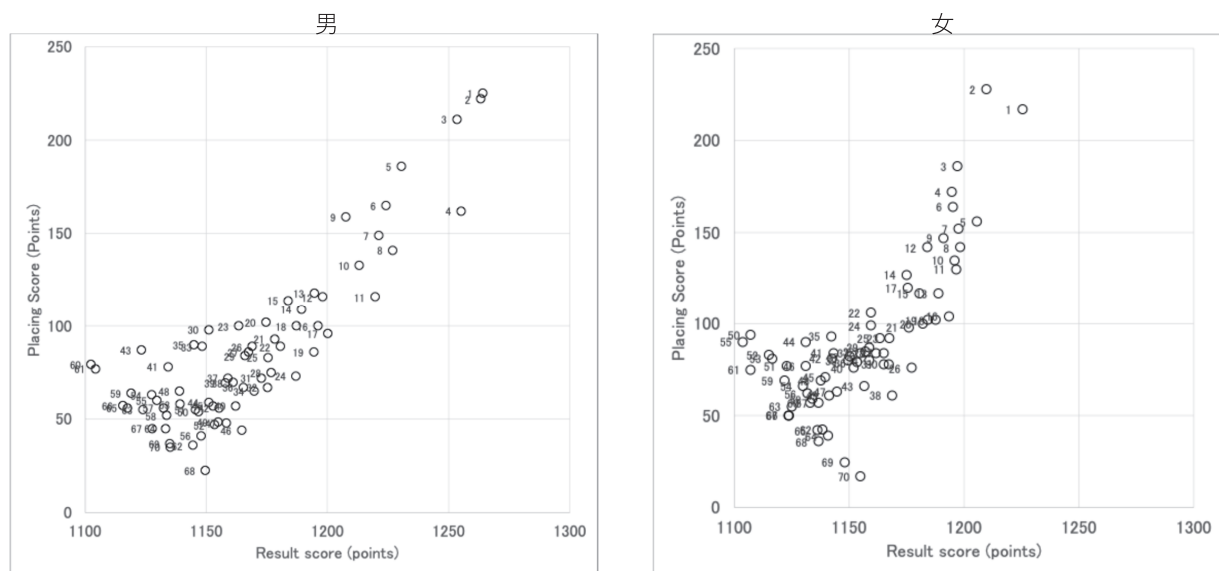


図1 男女 800 mにおけるリザルトスコアとプレイシングスコアの関係

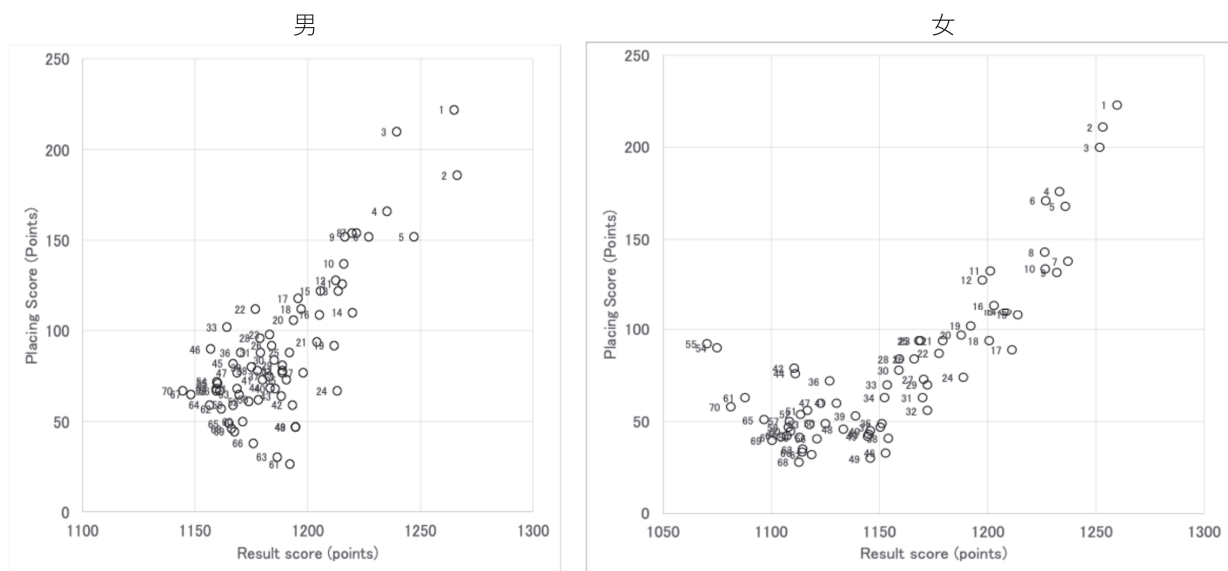


図2 男女 1500 mにおけるリザルトスコアとプレイシングスコアの関係

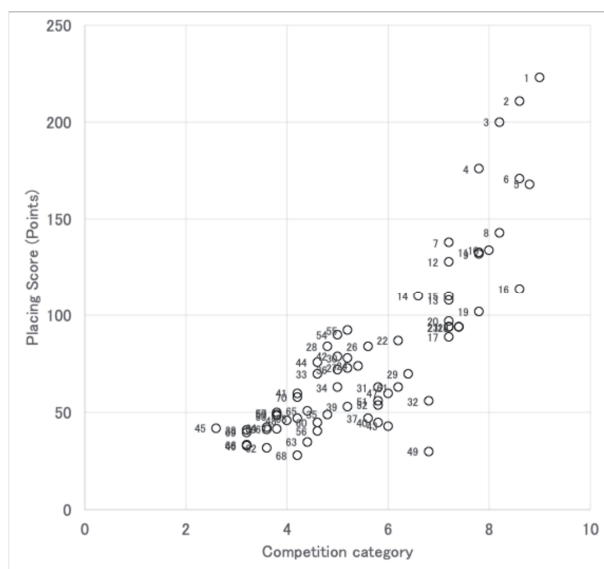


図3 女 1500 mにおける競技会カテゴリとプレイシングスコアの関係

とリザルトスコアの関係は、上位集団はやはり右上方に直線的に点在しているものの、下位集団は男子 1500 m と異なり、2 次曲線にフィットする分布となっている。すなわち、リザルトスコア 1150 以下に着目すると負の相関関係になっていることがわかる。女子 1500 m においてリザルトスコア 1150 は 4 分 07 秒 04 である。1100 は 4 分 13 秒 48、1050 は 4 分 20 秒 07 である。この時点ではあるが、記録的には 4 分 20 秒以内でプレイシングスコア 100 を獲得できればターゲットナンバーに入るスコアとなっている。

図 3 は、女子 1500 m における競技会カテゴリとプレイシングスコアの関係を示したものである。競技会カテゴリは、OW を 10、DF を 9、GW を 8、GL を 7、A を 6、B を 5、C を 4、D を 3、E を 2、F を 1 として、5 レースの平均値とした。OW はオリンピックおよび世界選手権、DF はダイヤモンドリーグファイナル、GW は世界室内やダイヤモンドリーグ、GL は地域選手権（アジア選手権）など、A、B、C、D は順にコンチネンタルツアーゴールド、シルバー、ブロンズ、チャレンジャーなど、E、F は国際陸連が認めた国際大会、国内大会となっている。上位集団は競技会カテゴリの高いところで、プレイシングスコアを大きく獲得していることがわかる。一方、競技会カテゴリが 6 以下の集団では、5 あたりにピークのある上に凸の 2 次曲線がフィットする分布となっている。B はコンチネンタルツアーシルバーと国内選手権（日本選手権）が含まれる。女子 1500 m では競技会カテゴリ B をピークとして高くても、低くてもプレイシングスコアが獲得しにくいことを示している。この傾向は他の男子 1500 m や男女 800 m でもみられる。すなわち、中距離ではカテゴリの高い大会では記録を出すチャンスがあるもののプレイシングスコアを獲得しにくく、またカテゴリの低い大会ではプレイシングスコアがそもそも低いため、世界選手権のターゲットナンバーに入るためにはカテゴリ B あたりの大会で良い記録と良い順位を目指すことが戦略的に有効であると考えられる。